

地域づくり県土警察常任委員会資料

(令和2年1月21日)

- 1 冬季風浪による浜村海岸(国道9号)への侵食被害の対応について

【河川課】……………1ページ

- 2 一般社団法人鳥取県建設業協会から鳥取県への水防資材贈呈式について

【河川課】……………2ページ

県 土 整 備 部

冬季風浪による浜村海岸（国道9号）への侵食被害の対応について

令和2年1月21日
河川課

年末年始にかけての冬季風浪により、鳥取市気高町浜村海岸（浜村川左岸）が侵食され、国道9号の法面の一部が崩落し、歩道まで達したことについて、対応状況と今後の対策について報告します。

1 被害要因と被災状況

昨年末の12月27日及び12月31日の2回、北北西からの強風（最大瞬間風速19.9m/s）により、最大波高約5m高波が押し寄せ、浜村川左岸導流堤西側の付け根付近の砂浜が延長約30mにわたって侵食され、国道9号の歩道法面の土砂の一部が崩落した。

2 現地の対応状況

道路を管理する国土交通省は、鳥取方面の片側2車線のうち海岸側の車線について通行規制を行うとともに、侵食拡大を抑えるため、大型土のう約230袋、消波ブロック約80個等を設置し、応急対応した。

現在、侵食の顕著な拡大は見られないが、引き続き、現地の監視体制がとられている。海岸を管理する県も、浜村海岸全域の侵食状況を監視しながら、国と情報共有し、連携を図る体制をとっている。

3 今後の対策

国道の本復旧は、国土交通省において図られる予定である。県においても、今回の海岸侵食を踏まえ、学識経験者等による「気高海岸侵食対策検討会（仮称）」を2月上旬までには立ち上げ、国の本復旧に合わせた砂浜の復旧の検討を行うほか、浜村海岸を含む気高海岸全体の砂浜の経年変化の把握等を行い、適切なサンドリサイクルの時期や量など、砂浜の保全・管理のあり方を検討していく。

気高海岸侵食対策検討会（仮称）

構成員

[学識経験者]

鳥取大学大学院

工学研究科（海岸工学）

黒岩 正光 教授

梶川 勇樹 准教授

[行政関係機関]

国土交通省鳥取河川国道事務所

鳥取市、県関係課



[参考]被災位置の昨年春の状況(令和元年5月撮影)



一般社団法人鳥取県建設業協会から鳥取県への水防資材贈呈式について

令和2年1月21日
河川課

一般社団法人鳥取県建設業協会から鳥取県への水防資材贈呈式を開催しましたので、報告します。

1 趣旨

令和元年台風19号では、東日本において広域的な大規模豪雨により多くの河川で堤防が決壊し甚大な浸水被害が発生した。

これを受け、本県で取り組むべき対策を検討するため、水防対策検討会及び防災避難対策検討会を開催しているが、堤防強化やバックウォーター対策を重点的な取組目標とし、この一環で、洪水が予想される段階での水防活動を強化していくこととした。

こうした中、一般社団法人鳥取県建設業協会から、地域支援策として水防資材を贈呈していただくことになった。



【寄贈された水防資材】

- ・大型土のう袋 1,000 袋
- ・ブルーシート (10m×10m) 100 枚

◎イメージ図



2 開催日・場所

- ・令和2年1月20日 (月)
- ・知事公邸

3 参加者

〔一般社団法人鳥取県建設業協会〕

- 会長 山根 敏樹氏 (こおげ建設株式会社代表取締役)
- 副会長 川端 雄勇氏 (株式会社かわばた代表取締役)
- “ 中尾 仁氏 (中一建設株式会社代表取締役)
- “ 由宇 正実氏 (大和建设株式会社取締役社長)
- “ 井中 紳二氏 (株式会社井中組代表取締役)
- 専務理事 中村 力男氏

〔鳥取県〕

- 鳥取県知事 平井 伸治

4 今後の予定

次期出水期に向けて、県と各地区建設業協会が大型土のう及びブルーシートの具体的な配置箇所等を検討する。